

I 茨城県の豊かで多様な自然環境とその公益的機能



(茨城県の森林の特徴)

- 森林面積：187,014ha
- 人工林面積：75,976ha（民有林）
- 県北地域は、林野率が高く、林業が盛んであるため人工林が多い。



(霞ヶ浦の特徴)

- 流域人口：約92万人（R6）
- 流域面積：2,157km²（県の約35%）
- 水道用水や工業用水、農業用水の供給など31市町村が関係。

〔森林の公益的機能〕

種類	主な内容
水源涵養	洪水緩和、水資源貯留、水量調節、水質浄化
土砂災害防止	土壌表面浸食防止、土砂流出防止、森林の生産力維持 等
土壌保全	
地球環境保全	二酸化炭素吸収、地球温暖化の防止 等
保健・レクリエーション	森林浴、キャンプなどの余暇の場 等
生物多様性保全	生物種及び生態系の保全
潮風害防止	潮風や飛砂による被害の防止

〔湖沼・河川の公益的機能〕

種類	主な内容
利水	水道用水や工業用水、農業用水など水資源の確保
水産資源育成	水産資源を育み固有の水態系を形成
生物多様性保全	生物種及び生態系の保全
親水	良好な景観、野外レクリエーション（サイクリング等）の場

「森林湖沼環境税」により下支え

〔税制度概要〕

納める人	県内に住所等がある個人	県内に事務所等がある法人
納める額	1,000円/年	県民税均等割額の10%/年
納める期間	平成20(2008)年度から令和8(2026)年度	

II 森林湖沼環境税を活用した主な取組の実績

(令和4年度～令和7年度)

森林保全のための取組

1 自立した林業経営による適切な森林の整備・管理

■林業経営体が実施する再造林、間伐等に対する支援

適切な森林整備と森林資源の循環利用を推進

○再造林: 約650ha ○間伐: 約1,800ha

■スマート林業の推進及び経営基盤強化

本県林業を牽引するトップランナーの育成を推進

○スマート林業に取り組む経営体: 10経営体

■建築物等の木造化・木質化

県産木材の需要を拡大するとともに、多くの県民が身近に木とふれあう機会を創出

○施設の木造化・木質化: 10件

■採種園の整備やコンテナ苗の生産に係る技術改良

再造林の推進に伴い供給増が求められている林業用苗木の安定供給を推進



皆伐後の再造林



間伐で健全となった森林



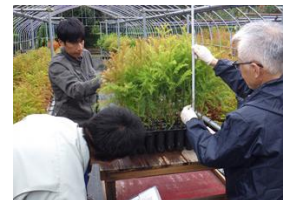
ドローンによる苗木運搬



活躍する高性能林業機械



建築物の木造化



コンテナ苗生産の技術改良

2 森林環境の保全

■海岸防災林における松くい虫の被害対策と広葉樹等の植栽

松くい虫による被害などにより荒廃が進んでいる海岸防災林の機能を強化

○植栽面積: 約30ha

■森林・林業体験学習の実施

子どもたちが自然観察や体験活動に取り組む機会を創出し、森林環境教育を推進

○森林体験学習参加人数: 約30,000人

■筑波山におけるブナの生育環境の整備

筑波山の貴重なブナ林の保護を推進

■第46回全国育樹祭の開催

継続して森を守り育てることの大切さを普及啓発するため、令和5年11月11日(土)・12日(日)に第46回全国育樹祭を開催



海岸防災林での植栽



松くい虫被害予防の薬剤散布



森林・林業体験学習



ブナ林保護対策



育樹祭お手入れ行事の様子

取組の成果

- ・森林を整備することにより、大気中から約103,000炭素トンを吸収
⇒ 平均的な家庭が1年間に排出する炭素量の約102,000世帯分に相当
- ・森林整備による効果(公益的機能の観点から金額換算) ⇒ 約44億円に相当
- ・適切な森林管理に向けて、約22,000haの森林を集約化

湖沼・河川の水質保全のための主な取組

1 生活排水等対策

■NP型高度処理型浄化槽設置や単独処理浄化槽撤去等の補助

浄化効果の高いNP型高度処理型浄化槽の設置補助や単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換に伴う撤去補助等を実施

○NP型高度処理型浄化槽設置や単独処理浄化槽撤去等の補助件数： 約3,500件



高度処理型浄化槽の設置



下水道・農業集落排水施設への接続

■下水道・農業集落排水施設への接続補助

下水道や農業集落排水施設への接続補助を実施

○下水道・農業集落排水施設接続補助件数： 約2,600件

2 農地・畜産対策

■良質堆肥広域流通促進事業

霞ヶ浦・涸沼の流域内で生産された堆肥の流域外農地等での利用を促進

○堆肥施用面積： 約480ha



流域外農地への堆肥散布



施設整備(堆肥舎等)

3 県民意識の醸成

■湖上体験学習の実施

県内小中学生を主な対象とした霞ヶ浦湖上体験スクールを実施

○湖上体験スクール参加人数： 約18,000人



湖上体験スクール

4 水辺環境の保全

■未利用魚の回収

霞ヶ浦の窒素・リンを除去するため、未利用魚の回収を実施

■アオコ回収等の対策

アオコ発生による悪臭被害を防止するため、アオコ回収等の対策を実施



未利用魚の回収



船によるアオコの撈拌

取組の成果

- ・流域から排出されるCODの汚濁負荷量を約210トン削減（R4～R7実績）
⇒平均的な家庭が1年間に排出する汚濁負荷量（COD）約30,000世帯分に相当
- ・森林湖沼環境税の導入後（H20～）、霞ヶ浦のCODは1.1mg/L低減（H19→R7）

霞ヶ浦の水質状況（COD）

